

(2) 取組の柱 2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業 良好な農景観の保全

集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、水稻作付を10年間継続する水田への奨励金交付や、地域の団体で共同利用する管理用設備の整備支援、意欲ある農家・NPO法人などが農地を安定的に利用できるよう農地を長期間貸し付ける取組などを推進します。

	27年度		30年度までの 目標	27年度までの 進捗状況
	目標	進捗状況		
水田保全承認予定面積	累計 121ha	新規 1.7ha 累計 120.7ha	累計 125ha	累計 120.7ha
共同利用設備の整備	5件	1件	25件	3件
長期貸付開始農地	4.2ha	7.1ha	累計 80ha	累計 75.6ha

※実績は11月末時点での集計です

事業 農とふれあう場づくり

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験農園や本格的な農作業ができる市民農園（栽培収穫体験ファーム、農環境学習農園、特区農園）の開設支援のほか、土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を市が買取るなどして、農園を主とした都市公園の整備を進めます。また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里での取組の推進や、市内の生産現場や直売所などの流通現場を巡るツアーの開催など、市民が農とふれあう機会を提供します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。

	27年度		30年度までの 目標	27年度までの 進捗状況
	目標	進捗状況		
収穫体験農園の開設支援	2.5ha	0.99ha	12.5ha	2.5ha
市民農園の開設支援	1.2ha	1.8ha	6.0ha	4.6ha
農園付公園の整備	1.4ha(2か所)	1.4ha(2か所)	7.3ha	2.8ha(5か所)
ふるさと村・恵みの里の農体験教室等	100回	82回	500回	176回
めぐりツアー実施	4回	2回	20回	5回

※実績は11月末時点での集計です



水田の保全（水田保全奨励事業）
（栄区田谷町）



農園付公園 整備の様子
（大柵杉の森ふれあい公園：都筑区）

市担当者からのコメント

- ・水田保全奨励では、公共事業等により水田面積の減少や水田保全契約の解約が続いていますが、今後も農家への事業周知を行い、残された水田の保全に取り組みます。
- ・市民の方にみどりアップ計画を知ってもらうには現場を見てもらうのが一番ですが、ふるさと村事業など屋外イベントは天候の影響を受け延期や中止せざるを得ないこともあります。地元の方と一緒に一生懸命準備してきたことから、私自身もとても残念に思います。

◆施策1についての評価・提案

- ・水田保全奨励の取組など、主要な事業については概ね目標を達成していますが、共同利用設備の整備など一部の取組では目標を達成できていません。次年度以降は、取組の内容の精査も含め更なる事業の推進に向け努力してください。
- ・横浜に残る貴重な水田景観の保全に向け、次年度以降も取組を進めてください。
- ・共同利用設備の整備については、進捗状況が思わしくありません。環境に配慮した事業の重要性は理解できますので、制度の見直しも含め事業の必要性が理解されるようにPRを行うなどより一層の推進を望みます。
- ・横浜の農業を活性化させ、農景観を良好に保全していくためにも、遊休化した農地を復元し、農地の利用を希望する担い手に貸し付けることは重要な取組です。新しい担い手の育成と共に引き続き取組を進めてください。
- ・農園付公園については、土地所有者による維持管理が難しくなった農地を買取り、市民が利用できる農園として継承することで、地域の新たなコミュニティの活性化などの相乗効果も期待できる事業です。一方で、農地などの買取事業費も大きいことから、対象地の選定に当たっては慎重さが求められる事業です。

施策2 地産地消の推進

事業 身近に感じる地産地消の推進

地域でとれた農畜産物などを販売する直売所の整備等の支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなど、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関わる情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。

	27年度		30年度までの目標	27年度までの進捗状況
	目標	進捗状況		
直売所の整備・施設拡充の支援	10件	4件	52件	8件
青空市運営支援	5件	5件	25件	9件
緑化用植物の生産・配付	24,500本	21,880本	125,000本	49,413本

※実績は11月末時点での集計です

事業 市民や企業と連携した地産地消の展開

市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

	27年度		30年度までの目標	27年度までの進捗状況
	目標	進捗状況		
はまふうどコンシェルジュの活動支援	20件	18件	100件	32件
企業等との連携	5件	5件	50件	10件

※実績は11月末時点での集計です



みなとみらい農家朝市



企業等との連携

市担当者からのコメント

市民・企業と連携した取組に、「はま菜ちゃん料理コンクール」があります。市内の小学生に市内産のキャベツやコマツナなどを利用した料理のレシピを考えてもらい、本選でその料理を実際に調理してもらうものですが、27年度の応募件数はなんと1,430件。

本選出場者の6名を選定するにあたり、応募書類の整理から審査に至るまで、膨大な作業に追われましたが、本選当日の子どもたちの姿を見て、疲れが吹き飛びました。

コンクールは今回で13回目になりますが、横浜における地産地消や食育の推進のため、引き続きがんばります。

◆施策2についての評価・提案

- ・地産地消の取組は農業への市民の理解の醸成と共に、市民が農の魅力を感じることができる重要な取組ですが、その根底には農家の農業経営が維持できていることを前提としており、生産者と消費者の良好な関係が保たれるような地産地消のあり方を期待します。
- ・直売所の整備や施設拡充の支援については目標を達成していません。市民が身近に農を感じる効果的な取組であり、内容の見直しも検討しつつ、目標達成に向け着実な推進が必要です。
- ・企業等との連携が着実に進んでいますが、地産地消の市民への浸透に向けその連携の輪がさらに広がるように取組を推進してください。

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

(300～500字程度)